

中央鉱山保安協議会 議事要旨

1. 日 時：令和7年3月10日（月）13：00～14：13

2. 場 所：経済産業省別館2階238会議室、Teams 会議

3. 出席者：

（学識経験者）

福井委員（会長）、五十嵐委員、笹木委員、所委員、原委員

（鉱業権者代表）

岡田委員、杉津委員、平田委員、松本委員

（鉱山労働者代表）

小河委員、篠原委員、浄土委員

4. 議 題：

【審議事項】

（1）鉱山における高頻発災害の現状と対応の方向性について

（2）火薬類取扱所の盗難防止措置（警鳴装置）の運用見直しについて

【報告事項】

（3）第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について

（4）鉱山保安マネジメントシステムに関する一部見直しについて

（5）特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について

（6）全国鉱山保安表彰の見直しについて

（7）CCS事業法について

5. 議事概要

（1）鉱山における高頻発災害の現状と対応の方向性について

- 事務局から、鉱山における高頻発災害の現状と対応の方向性について説明を行った。
- 各委員により質疑等が行われた後、内容について了承された。

（委員からの主な意見）

- ・ 自主保安ということで挟まれ・巻き込まれ等についてはすでに盛り込んでいる

鉱山もあると思うが、そうではない鉱山に対しては災害を減らすという意味でよい対応だと思う。

- ・ 規程を見直し、墜落、挟まれ・巻き込まれを防止するために文言を入れることは当然のことだと思う。実際に事故を未然に防ぐために、特に経験の少ない方への教育を手厚くすることが現場では重要なのではないか。

(2) 火薬類取扱所の盗難防止措置（警鳴装置）の運用見直しについて

- 事務局から、火薬類取扱所の盗難防止措置（警鳴装置）の運用見直しについて説明を行った。
- 各委員により質疑等が行われた後、内容について了承された。

（委員からの主な意見）

- ・ 火薬類取扱所については、時代に合わせて自動化・デジタル化する方法も考えていただきたい。
- ・ 以前から JIS に基づいた対応をしていただきたいという要望が複数あったため、運用の見直しが図られることはよいと思う。

(3) 第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について

- 事務局から、第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について説明を行った。

（委員からの主な意見）

- ・ 災害事故については毎年報告しているが、前提として他の産業に比べて低いレベルに落ちてきている。その中でより減らそうという努力をしている。こうした中で挟まれ・巻き込まれ等の災害が残っているところだと思う。

(4) 鉱山保安マネジメントシステムに関する一部見直しについて

- 事務局から、鉱山保安マネジメントシステムに関する一部見直しについて説明を行った。

（委員からの主な意見）

- ・ 鉱山保安マネジメントシステムは、労働者の安全・安心を担保するために必要な対策をすることにより安全に対する意識を高めており、とてもよい方向であると思う。

(5) 特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について

- 事務局から、特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について説明を行った。

（委員からの主な意見）

- ・人材育成について、鉱山関係は全般的に人手不足である。この中で坑廃水処理のところが照らされているが、他も含めて全般的な対策が必要だと思う。

（6）全国鉱山保安表彰の見直しについて

- 事務局から、全国鉱山保安表彰の見直しについて説明を行った。

（委員からの主な意見）

- ・昨今の労働者不足の問題もあり、若年層にやる気を出させるためにもよいことだと思う。

（7）CCS事業法について

- 事務局から、CCS事業法について説明を行った。

（委員からの主な意見）

- ・CCSは鉱山保安の技術シーズをうまく活用した事業だと感じている。安全性を担保して積極的に進めていただくとよいと思う。

お問合せ先
経済産業省 産業保安・安全グループ
鉱山・火薬類監理官付
電話：03-3501-1511(4961)